

講義コード	519400402	
講義名	教育方法論 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	後期	
基準単位数		
時間	0.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	山本 詩織	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

授業の概要

本講義では、幼児教育の方法とはいかなるものなののかについて、発達段階の知識を踏まえつつ学んでいきます。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

授業では板書と配布印刷物を活用します。

②授業形態

授業の大半は各自のグループワークを中心に進めます。

③アクティブラーニング

ディスカッションやグループ学習を取り入れます。

④課題に対するフィードバックの方法

提出課題を回収後、返却時に解説をします。

授業の到達目標及びテーマ

本講義では、幼児教育の方法原理を学びます。具体的な到達目標は以下の通りです。

1. 幼児教育・保育の基礎的な原理を習得した上で、現代の理論的課題について考察できるようになる。
2. 上記の点を踏まえ、幼児教育・保育のあり方として適切な活動を構想できるようになる。
3. 自らが構想した幼児教育・保育の方法を、具体的に指導案の形としてまとめ上げることができるようになる。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」を達成するための科目です。

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション「シラバス」の確認、幼児教育・保育における「方法」とは何か
第2回	発達段階を踏まえた教育（1）—ウェブ式記録の方法
第3回	発達段階を踏まえた教育（2）—0～6歳児の発達（映像資料から学ぶ）
第4回	発達段階を踏まえた教育（3）—0～2歳児の発達（グループワーク）
第5回	発達段階を踏まえた教育（4）—0～2歳児、成果発表
第6回	発達段階を踏まえた教育（5）—3～6歳児の発達（グループワーク）
第7回	発達段階を踏まえた教育（6）—3～5歳児、成果発表
第8回	指導案作成の基礎（1）—作成時の注意点、実習を見据えた指導案作成
第9回	指導案作成の基礎（2）—マップ型指導案の作成
第10回	指導案作成の基礎（3）—実践準備
第11回	指導案作成の基礎（4）—振り返りと課題提出、個人指導案作成
第12回	幼児教育・保育における様々な教育方法
第13回	教具と教育方法（1）教具の理解、グループワーク
第14回	教具と教育方法（2）発表
第15回	発達を踏まえた教育方法—環境、教具まとめ

授業時間外の学修

幼児教育の方法について、その原理にまで遡って思考する態度を求めます。

予習として、事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨んでください。各回の予習には60分かかると想定されます。

また、毎回、授業の最後に復習課題を伝えます。各回の復習には120分かかると想定されます。

実務経験の有無

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
具体性	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿を自らのかかわる問題	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿をイメージで	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿を概ねイメー	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まり、具体的な行為や姿をイメージすることが出来ないためレポートへの

	として豊かにイメージできていると認められる	きていると認められる	できているが、現実との乖離も見られる	助言・新たな資料提供等の支援を行っている
実践構想に対する能力	授業内容を100%理解しており、実践に関する書類作成において実情に応じた臨機応変な対応が出来る、実践構想に対する能力がより豊かに身につけていることが認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、実践に関する書類作成において必要な実践構想に対する力が身につけていることが認められる	授業内容をほぼ70%程度理解しており、実践に関する書類作成において必要な実践構想に対するがやや身につけていることが認められる	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等		
成果発表		
授業への貢献度	20%	
レポート	80%	
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	その都度解説、講評する	その都度解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

<p>クリッカー、アンケート、小テスト等 ビデオ会議システム チャット 掲示板の活用 メール等の活用</p>
--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
<p>発問の吟味・精選 グループワークのディスカッションやディベート</p>		

(議論の場と時間) プレゼンテーション コメントシートの活用 調べ学習・調査の活用	PBL(課題解決型授業)	
教科書		
河原紀子(監)『0～6歳 子どもの発達と保育の本』学研教育みらい		
参考書		
授業内で適宜紹介する。		
SDGsとの関連		
4. 質の高い教育をみんなに		
特記事項等		
①実務経験のある教員 なし		
②科目のナンバリング SCO1201		
③オンライン授業の実施方法 Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。		
④その他の特記事項 なし		
研究室(訪問先等)		
中央研究棟2階 228研究室		
電話番号		
028-667-7111 (代)		
授業用E-mail		
yamamoto@sakushin-u.ac.jp		
成績評価法		
レポートと平常点で評価を行ないます。		
①試験 0%		
②レポート 80% 提出物の提出状況、内容を評価します。		
③平常点 20% グループワークへの取り組み、出席を評価します。		
④その他 0%		